

令和元年度第2回江別市学校給食会理事会議事録

日 時	令和元年10月24日(木) 15時00分～15時48分
場 所	江別市立学校給食センター 研修会議室
出席理事	中村理事長、萬副理事長、中村(和)理事、波津理事、松下理事、伊藤(篤)理事、伊藤(祥)理事(7名)
欠席理事	遠藤(光)理事、渡辺理事、遠藤(絵)理事、鈴木理事(4名)
事務局	鈴木事務局長、森山事務局次長、佐藤事務局員、木村事務局員、吉田事務局員(5名)
関係部局	伊藤教育部次長
傍聴者	なし
議 題	令和2年度の学校給食費について
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議案第1号 令和2年度の江別市学校給食費について <ul style="list-style-type: none"> 1 学校給食に係る費用の負担について 2 主食費・牛乳費の状況について 3 副食費の状況について 4 前回改定時(平成26年度)と現単価の比較について 5 来年度の給食費について △令和2年度の江別市学校給食費についての審議終了後に追加配布された資料 ・ 議案第1号(追加資料) 令和2年度江別市学校給食費単価の改定案について <ul style="list-style-type: none"> 1 給食改定の理由 2 給食費改定額の試算 3 改定後の給食単価 <p>別紙資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 別紙1 江別市学校給食費単価の年度別推移 ・ 別紙2 平成26年度と令和元年度の食材費の比較

▼会議内容

【資料確認】

○司会：鈴木事務局長

皆さま、こんにちは。

定刻になりましたので、『令和元年度第2回江別市学校給食会理事会』を始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、当理事会にお集まりいただきましてありがとうございます。

また、急な開催ということで、都合の悪い委員もおられますことをお詫び申し上げます。

事務局長の、江別市学校給食センター長の鈴木でございます。

江別市学校給食会は、理事11名をもって組織されており、市立小・中学校における学校給食事業の円滑な運営を図ることを目的としております。

本日の議事につきましては、審議事項が、「議案第1号 令和2年度の江別市学校給食費について」となっておりますので、よろしくご審議をお願いいたします。

なお、学校給食会理事会は、会則第9条第2項において、理事の過半数の出席を以て成立することとなっております。

本日は、遠藤^{みつお}光郎理事、渡辺^{たくし}琢史理事、遠藤^{えり}絵里理事、鈴木理事の4名から、所用により欠席という事で、事前にご連絡をいただいております。

現時点で、11名のうち7名の出席がありますので、理事会が成立しておりますことをご報告いたします。

次に、資料の確認ですが、本日、お手元にお配りしました資料は、

- ・議案第1号 令和2年度の江別市学校給食費について
- ・参考として、北海道新聞の記事をコピーしたもの（10/12付、「給食費来春値上げ方針」）

となっております。

不足等ございましたら、事務局にお申し出ください。

【開会】

司会：鈴木事務局長

それでは、ただいまより、令和元年度 第2回 江別市学校給食会理事会を開会いたします。

開会にあたりまして、中村理事長よりご挨拶を申し上げます。

【中村理事長挨拶】

皆さんこんにちは、お昼のお仕事の合間に駆けつけていただき、ありがとうございます。

今日は事務局から話がありました、たいへん大きな課題について皆さんの率直なご意見をいただきたいと思います。この理事会として、今後の方向性を決めて行ければ良いかと思っています。今日は思い切り自分の考えを述べていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（鈴木事務局長）

中村理事長、ありがとうございます。

続きまして、議事に入る前に、本日は傍聴希望者がありませんことをご報告いたします。

【議事】

司会：鈴木事務局長

それでは、議事に入りたいと思います。

これ以降の議事の進行につきましては、中村理事長、よろしくお願いいたします。

（中村理事長）

それでは議案第1号「令和2年度の江別市学校給食費について」を事務局から説明願います。

（鈴木事務局長）

私から、議案第1号「令和2年度の江別市学校給食費について」ご説明いたします。

議案第1号「令和2年度の江別市学校給食費について」をご覧ください。

当市の学校給食費は、前回、平成26年4月の改定を最後に、今年度まで5年間、据え置いてきたところでありますが、この間、主食の原材料費や加工賃、牛乳単価が上昇しております。

主食費は改定当時から約7.1%上昇しており、牛乳費も5年間で約10.9%上昇しております。

これらの上昇分は、これまで副食費を切り詰めることで対応しておりますが、文部科学省で定め

る学校給食摂取基準の栄養量を確保するための献立の工夫も限界に達しつつあることから、令和2年度の給食費について審議していただきたく思います。

まず、「1. 学校給食に係る費用について」ですが、学校給食法第11条第1項では、給食に従事する職員の人件費や施設・設備費などの経費は設置者が負担し、同条第2項では、給食の食材費は保護者が負担すると定められており、給食に係る人件費や施設整備費などの経費は江別市が負担し、給食の食材費については、保護者にご負担いただいております。

次に、「2. 主食費・牛乳費の状況について」ですが、

「道産小麦粉単価年度別比較」と「精米単価年度別比較」をご覧ください。

小麦粉のうち、主食のパン、ラーメンの原料の強力粉、うどんの原料の普通粉は、平成29年度に一時下がりましたが、翌年以降増加に転じています。この4年間で強力粉は、1kgあたり19.0円、11.34%、普通粉は、1kgあたり21.0円、15.91%上昇しています。

精米の単価は、毎年上昇しており、平成27年から4年間で1kgあたり53.0円、約20.70%と大きく上昇しています。

次に「牛乳単価の年度別比較」をご覧ください。

牛乳は毎年、平均すると約0.87円上昇しており、4年間の上昇率は、8.59%です。

次に、「3. 副食費の状況について」ご説明いたします。

給食費の前回改定がありました平成26年度以降、主食費・牛乳費の上昇に対応するために、副食費を減額することにより、給食費の単価を据え置いてきました。

これにより、文部科学省が定める学校給食摂取基準の栄養量を確保するために、栄養教諭が献立に様々な工夫を凝らしてきましたが、現在、その工夫も限界になりつつあります。

2ページ上段の表は、平成27年度から令和元年度までの副食費になりますが、小学校低学年で8.94円、5.89%の減額、中学年で9.07円、5.97%の減額、高学年で9.36円、6.16%の減額、中学校で9.40円、4.77%の減額となっております。この間、食材費の上昇もありますことから、栄養教諭は献立作成に大変苦勞しているところです。

次に、「4. 前回改定時（平成26年度）と現単価の比較について」ご説明いたします。

2ページ下段の表は、平成26年度と令和元年度の主食費、副食費、牛乳費を比較した表です。

主食費は、小学校低学年で5.27円、7.32%、中学年で5.40円、7.20%、高学年で5.69円、7.29%、中学校で5.73円、6.66%の上昇。牛乳費は、小学校・中学校ともに4.67円、10.86%の上昇となっております。これら主食費と牛乳費の上昇分は、副食費を減額することによって、一食の単価を維持してきましたので、逆に副食費は、小学校低学年で9.94円、6.50%、中学年で10.07円、6.58%、高学年で10.36円、6.77%、中学校で10.40円、5.25%の減額となっております。

次に「5. 来年度の給食費について」ご説明いたします。

先ほども申し上げましたとおり、平成26年度以降、給食の一食単価を据え置くために副食費を減額して対応してまいりましたが、副食に使用する野菜や肉、加工品等の食材費も年々上昇しております。これまで、栄養教諭の献立の工夫等により、副食に係る食材費を切り詰めながら、文部科学省で定められた学校給食摂取基準の栄養量を確保してきましたが、その工夫もすでに限界に達しつつあることから、学校給食摂取基準の栄養量を確保することはもとより、児童生徒が食文化に触れ、食の楽

しさを感じられる給食を継続的に提供できるよう、給食費の改定を含めた来年度の給食費について、審議をお願いしたく存じます。

最後に、資料として、令和元年10月12日付の北海道新聞江別版を配付いたしました。

こちらは、今年9月12日に開催された令和元年第3回定例市議会一般質問において、干場議員から「学校給食事業について食材費の高騰等による影響と今後の対応について」の質疑を受けて、北海道新聞から取材があり、まとめられたものであります。

○一部資料の訂正あり。

(中村理事長)

今、江別の学校給食費について現状についての説明がありましたが、質問等ありませんでしょうか。

(萬副理事長)

新聞記事を見ますと、人口5万人以上の市の給食単価の表で高い方から2番目の高水準のようですが、なぜ江別市の給食費の単価が高いのか主な理由について説明していただきたい。

(鈴木事務局長)

江別の給食費単価がなぜ高いのかというご質問であります。先程も説明させていただきましたとおり、給食の単価は主食費、副食費、牛乳費と分かれております。まず、主食費が小学校4年生では全道で8番目、中学校が5番目と非常に高い水準にあります。その一方で、副食費は小学校4年生が106番目、中学校81番目と平均より下の水準であります。

主食費がなぜ高いかということですが、児童・生徒が美味しく食べられるように嗜好も考慮しながら、メロンパンや江別小麦パンなど様々な独自レシピを使い提供しているところです。その他にもタマゴソフトパン、ミルクパン、ココアパンなど、他の市町村と比べますと加工パンを多く提供しております。コッペパンなどの基準パンに比較しますと割高になっているところでもあります。ひと月にしますと角食やコッペパンは各一回程度となっており、加工パンの比重が高いことが主食費の高いことにつながっているかと考えます。

また、副食費につきましては地場産野菜にこだわるなど産地を大変重要視しており、食材の選定には価格を第一とせず、品質を重視していることから、副食費についても一部高いものを使っております。地場産野菜につきましては種類により複数の農家から集める必要があることから、割高になってしまう場合もあると考えます。

(中村理事長)

今の説明、皆さんお解りいただいたでしょうか、地産地消とレシピを多くということでも主食も副食も工夫されているということですね。

それでは、給食費の現状について説明がありましたので、皆さんからこんなのはどうかなど、活発なご意見をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。

たとえば主食費や牛乳費が上がっています。それが副食費を削っているという説明がありましたが、それについてみなさんどうでしょうか。

(伊藤(篤)理事)

消費税も上がりまして、家計もお母さんたちにとって厳しいことになっていると思っております。今のお話を聞いて江別の子どもたちに江別の美味しい物を食べてもらおうと努力していることが解りました。

私も小学校でお父さん、お母さんや子どもたちに説明したいと思っております。価格や景気の影響はあ

るでしょうが、色々な食材が高くなる一方で美味しさも追求しながら、費用面や価格に関しても考えていただくことが、必要になるかと思います。

(中村理事長)

逆に、給食費を値上げすることになってくると、家庭の負担が増えてくることになると思いますが、それに対して皆さんご心配なことはないでしょうか。

事務局に私から聞きたいのですが、給食費が値上がりするということは、例えば給食費の未納に結びつくということは想定されているのでしょうか。

(鈴木事務局長)

給食費の値上げが直接未納に結びつくとは事務局としては考えておりません。

(萬副理事長)

前回の改定の時の影響について、手元に資料はありますか。

(森山事務局次長)

平成5年度から平成30年度の収納率の推移についてご説明します。すべてパーセンテージで申し上げますと、直近で平成25年度、改定前で98.31%、翌年値上げしました平成26年度の収納率は98.19%、この2か年で見ますと0.12%下落したことになります。ただ、そのあと平成27年度で98.33%、平成28年度98.34%と上り調子になっており、この間、98.20%から98.30%台を上下しているので、改定が収納率に影響を及ぼすことは特になく考えております。

(中村理事長)

給食費の値上がりが未納に繋がることはないと言われました。

あと、いかがですか。

(波津理事)

さまざまな物価が上昇して家計に及ぼす影響は大きいのかと思います。しかし、今までの経過を聞きますと、副食費の食材自体が値上がりしている状況で、それをマイナスにするのはかなりの苦労があると思われます。そして、他の部分で調整している。ここでも再三お話しされていましたが、限界に達している。その中で文部科学省が定めている学校給食摂取基準をしっかりと確保するためには、やはり、値上げは仕方ない事なのかなと思います。

今日、私の学校(いずみ野小学校)で学校運営委員会がありまして、8名の方が来られ給食を食べてもらいました。結構ご高齢の方もいらっしゃいましたが、一人として残す方はいなく、すべて完食でした。「やはり給食はいいな」というご意見もありました。値段を下げて維持する、落とすという方法もあるのかもしれませんが、子どもたちが残してしまうとか美味しくないということになると、本来のねらいと逆行してしまいます。やはり美味しく食べることが重要なことだと考えます。今回の値上げの措置はやむを得ないと感じております。

(中村理事長)

ありがとうございます。

その他にありませんか。

(松下理事)

いまの江別の給食は地産地消となっていますが、全部が全部江別産ではないと思います。たけのこなど海外、外国産の物は使っていないのですか。

(鈴木事務局長)

たけのこなどについては外国産を使っている自治体があることは聞いておりますが、本市の場合は国産にこだわっております。

それ以外の部分も、加工品になりますが、例えば「ほぐしえのき」「ほぐしシメジ」は国内産の無農薬を指定し、「きりぼし大根」は宮崎産の大根を使用している物を限定し、「こんにやく」「つきこんにやく」「しらたき」は群馬産のものを指定して使用するなど、こだわっております。

(中村理事長)

他にはありませんか。

(中村(和)理事)

説明を聞いていて、今後の値上がりは止む無しなのかと感じるのですけれども、データでしっかり示されているので、この後も色々なものが値上がりしていくという事がわかりました。今後、値上がりが確実にというものもあるのではないのでしょうか。

(鈴木事務局長)

今のご質問は、これからの値上がりを給食費の改定に盛り込むというお考えだと思いますが、事務局としては平成26年度から今年度まで、副食費を下げざるを得なかった部分を回復するという考え方に立っています。今後につきましては、ご質問にあったように、上昇していくことは当然予想されますが、しかし予想にすぎませんので、あくまでも数値として出ている平成26年度から令和元年度までの部分を回復させるという事を考えているところです。

(中村理事長)

他にどうでしょうか。

ご発言されていない方がいいでしょうか。

(伊藤(祥)理事)

主婦の感覚からしましても、値上がりは主食・副食に限らず、いろいろなものの値上がりもひしひしと感じています。ですから、お母さんたちも上がった時はショックを受けるかもしれませんが、自分の家計から考えてみても受け入れざる得ない気持ちになると予想されます。小麦粉にしても、北海道産、特に江別産のものは高い事は皆さん知っていますし、それだけこだわって給食を作っていることについて理解できたので、仕方ないかと思います。

(中村理事長)

値上げしていくのも仕方ないとの発言がありました。

それでは、議案第1号「令和2年度の江別市学校給食費について」審議をしたいと思います。

いかがですか。

給食費を値上げしていくのは、やむを得ないとの意見で取りまとめてよろしいのでしょうか。

(全体)

異議なし。

(中村理事長)

それでは、令和2年度の学校給食費については値上げもやむを得ないと審議いたしました。

(中村理事長)

それでは「令和2年度の江別市学校給食費について」単価を改定する方向で引き続き理事会を進めたいと思います。それについて、事務局から説明はありますか。

(鈴木事務局)

事務局で改定案を作っておりますので、追加資料を配布させていただきます。

(事務局が追加資料を配布)

(鈴木事務局長)

それでは、事務局から令和2年度給食費改定案についてご説明いたします。

お配りしました、議案第1号(追加資料)「令和2年度江別市学校給食費単価の改定案について」をご覧ください。

まず、「1. 給食費改定の理由」としましては

前回給食費を改定いたしました平成26年度以降、給食の一食単価を据え置くために副食費を減額して対応を続けていましたが、副食に係る食材費も年々上昇しているところです。これまで、栄養教諭の献立の工夫等により、副食に係る食材費を切り詰めながら、学校給食摂取基準の栄養量を確保してきましたが、すでに限界を迎えつつあることから、今後も継続的に、学校給食摂取基準の栄養量を確保するとともに、児童生徒が食文化に触れ、食の楽しさを感じられる給食の提供ができるよう、給食費単価の改定が必要であると考えているところであります。

次に「2. 給食費改定額の試算」についてご説明いたします。

別紙の「江別市学校給食費単価の年度別推移」をご覧ください。

主食費・牛乳費につきましては単価の上昇分は給食費単価の中で反映されていることから、令和2年度は令和元年度の単価といたします。平成26年度の主食費は小学校低学年では72.00円になっておりますが、令和元年は77.27円になっており、5.27円上がっておりますが、こちらは反映されておりますので、そのまま77.27円を持って来る形になります。

次に副食費になりますが、別紙の「平成26年度と令和元年度の食材費の比較」をご覧ください。

副食費は、平成26年度と令和元年度に共通している品目である野菜16品目、肉4品目、加工品62品目の契約金額を比較したところ、野菜は6.83%、肉は5.19%、加工品は7.43%上昇しております。

野菜・肉・加工品の令和元年4月から8月までの総支払い実績から野菜・肉・加工品の分類ごとの支払い額と構成比を算定し、それぞれの構成比と増減率の加重平均を合計しました。その率が一番右下の6.96%になりますので、副食費は、平成26年度の単価にこの6.96%を乗じた金額を来年度の副食費と算定いたしました。

改定案の考え方としましては、副食費を前回改定時の平成26年度の水準に回復させることを前提としているものであります。

「3. 改定後の給食単価」ですが、小学校低学年が、268円から21円（7.84%）増の289円、中学年が、271円から21円（7.75%）増の292円、高学年が、274円から21円（7.66%）増の295円、中学校が、327円から24円（7.34%）増の351円としたいと考えています。

年間食数を204食として計算しますと、1か月間の給食費の負担額としましては、小学校は357円の増加、中学校は408円の増加となり、12か月では、小学校は4,284円の増加、中学校は4,896円の増加となります。

なお、令和元年10月に消費税率が改定されました。学校給食の食材費については、軽減税率の対象となっており、8%のままでありますが、調理用の日本酒やワイン、みりんは酒税法の対象であることから、消費税率は10%に改定されております。また、人件費や梱包費、輸送費などの間接経費は10%に改定されております。現時点での消費税率改定の影響は確認できておりませんが、来年度以降、影響が顕著であると認められた場合はあらためて、当理事会で報告させていただきたいと考えております。

（中村理事長）

事務局から改定の説明がありましたので、皆さんから質疑を受けたいと思います。

（萬副理事長）

小学校は低学年、中学年、高学年と三区分、中学校は一区分ということで、それぞれの一食単価が改定される試算をすると、こういう結果になるということですが、主食費と牛乳費はそれぞれどういう形で決定されるのか改めて説明していただきたい。

（鈴木事務局長）

主食費につきましては、小麦粉と精米の価格について北海道学校給食会と関係団体との契約に基づき決められたものです。全道で統一単価となっております。

また牛乳費につきましては北海道農政部の入札により決定されており、こちら全道で統一の単価となっております。

（中村理事長）

いかがですか。

（萬副理事長）

解りました。

（中村理事長）

私からよろしいですか。

平成26年度をベースにして、そういう改定案になったと思うのですが、それは何か理由があるのでしょうか。

（鈴木事務局長）

平成26年度の改定時に適切な単価になっていると考えておりますので、そこから令和元年度までの上昇分を回復するという考え方で、平成26年度をベースとして食材費の上昇を加味した金額を増額したところです。

(中村理事長)

他にないでしょうか。

具体的に小学校が21円、中学校が24円の値上げと考えているようですが、これについてはいかがですか。

(波津理事)

今回の値上げは、副食費分を元に戻すという考えですが、今後さまざまな状況が生まれてくる可能性があります。値上げに次ぐ値上げは印象が悪くなるので、ある程度先を見据え、少し余裕を持った上げ方はできないでしょうか。あるいは、今までの推移をみて今後それほど大きな変動は無いという認識で今回の値上げ幅が決定されたのでしょうか。

(鈴木事務局長)

いま波津理事がおっしゃったとおり、小麦粉や精米の価格、牛乳費の上昇など、今後様々な物価の上昇が考えられます。今回につきましては、あくまでも現時点での回復と考え、小学校は21円の増、中学校は24円の増としたところですが、家計に与える影響は小さくないものとも考えておりました。家計への負担を考えながらこの金額に至ったというところですが、今後、給食の単価と実際の状況が乖離していくということも考えられます。毎年度で給食費を改定するという事については様々な議論があると思いますので、状況に応じて事務局としてしっかりと精査しながら報告させていただきたいと考えています。

(中村理事)

現状を回復するという形で今回は値上げするという説明でした。

他にどうでしょうか。

(伊藤(篤)理事)

副食費の上昇率が6.96%で、小学校低学年の1食単価の上昇率は7.84%になるということをお母さんたちに分かりやすく説明できれば良いと思います。

(鈴木事務局長)

ありがとうございます。

副食費は6.96%上げておりますが、主食費と牛乳費の上昇率がもう少し高いので全体で計算すると7.84%となりますので、実際に改定が決まった際にはそういったことにも配慮しながら資料を作りたいと考えます。

(伊藤(篤)理事)

精米の単価が平成27年度から4年間で20.7%上昇しているのに、給食費の上昇は7.84%に抑えられていることを、皆さんに分かりやすく説明できると良いと思います。

(中村理事長)

貴重なご意見でした。

他にどうですか。

今、ここで値上げするということを決めるのではなく、持ち帰ってゆっくり考えていただき、次回の理事会の中で最終決定していきたいと考えます。

それで、よろしいでしょうか。

(鈴木事務局長)

今、お話がありましたように今回は持ち帰っていただき、次回の開催で方向性を決定していただければと思います。

次回の理事会は日程調整のうえ11月の中旬までには開催したいと考えます。早々に皆様のご都合をお聞きしまして次回の日程を決定しお知らせいたしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(萬副理事長)

次回の理事会で改定幅を決定したいと事務局から提案がありました。判断するにあたってこういう資料が欲しいといったご要望があれば、この場でも結構ですし、事務局に直接ご連絡いただき、次回、慎重に審議したうえで決定していけたらよいと思います。

いかがでしょうか。

(中村理事長)

皆さんに理解が得られるような形の資料であればよいと思います。

(萬副理事長)

他の都市の最近の給食費の改定状況があるとバランス等を考えやすいかと思いますが、皆さんいかがでしょうか。

(伊藤(篤)理事)

最近給食に関するテレビの話題がとても多く、関東のある都市では子どもたちが全く給食を食べないというニュースがありました。それに比べると美味しい給食を江別市は提供していると感じています。

その都市では残す量が非常に多いというデータがあるそうです。残食の量が分かる資料があればと思います。学校開放で給食を食べてもらおうと残す人はいません。残食の量が解ると、子どもたちが喜んで食べていることがわかります。良い給食を続けるためにお母さんたちに解りやすい資料を用意し、値上げを納得してもらおうと良いと思います。

(中村理事長)

他にどうでしょうか。

私が給食会の理事になってから色々な人から学校給食について話を聞くのですが、札幌の方に聞いた時は「江別は良いよ」と言われました。なぜですかと問うと「地産地消」をやっていることはとても素晴らしいことだと。そして、作り手が見える物を食べているという事は親としては安心だという話を聞きました。それが少し高くても構いませんよとも言っていました。

給食費を改定すると、道内での水準はいまよりも高いものになると思います。

そのことも含め、審議していきたいと思います。

それでは、たいへんお疲れさまでした。

これで、理事会を終わります。

ありがとうございました。

(15:48散会)

